

【指導の重点】自ら学び考えながら、課題に主体的に取り組む子供を育てる。

※「問題解決力」の育成。

教科	学習の現状と課題				目標値【総合】	具体的な授業改善(手だて)
	総合学力調査の結果			課題		
	本校	全国	差			
国語	総合	86.1	81.7	4.4	90	○物語文では、叙述に則した読み取りができるように、行動や会話、気持ちを表す言葉などを、説明文では、話の順序、問と答え、接続語などに着目して文章を読むように指導する。 ○文章読解問題のミニテストを毎週行っていく。
	基礎	92.6	87.8	4.8		
	応用	51.5	49.6	1.9		
	基礎・応用・観点・領域別での全国との比較では、すべての項目で全国比を上回っている。しかし、個別の結果を見ると、D層児童の正答率が70%を下回っており、平均正答率が下がっている。CD層の児童の児童もB層へ近づけることが課題である。 特に、応用項目では、基礎基本に比べて正答率が低く、文章の読み取りに課題がある。					
算数	総合学力調査の結果			課題	目標値【総合】	具体的な授業改善(手だて)
	本校	全国	差			
	総合	90.2	89.2			
基礎	94.7	91.9	2.8			
応用	72.7	79.0	-6.3			
	【学力層の割合】 A・B層 45.5% C・D層 54.6% と、C・D層の方がA・B層の割合よりも高く、11名中6名がC・D層に位置している。A・B層の割合を増やすことが課題である。 【平均正答率全国比】 教科総合では+1.0Pだが、応用問題では-6.3Pとなっている。基礎基本の定着は見られるが、既習事項を活用して新しい問題を解決することに課題がある。 【観点別・領域別平均正答率】 思考・判断・表現では、-10.0Pと、全国平均を大きく下回っている。国語同様、上位層と下位層の差が大きく、下位層の底上げをする必要がある。					